

経営比較分析表（平成29年度決算）

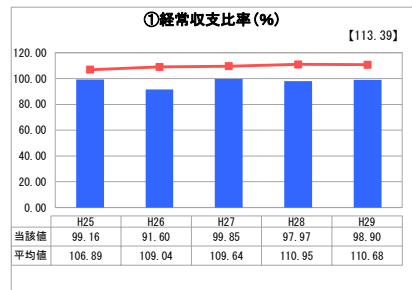
岡山県 漣口市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	81.92	97.02	3,110	

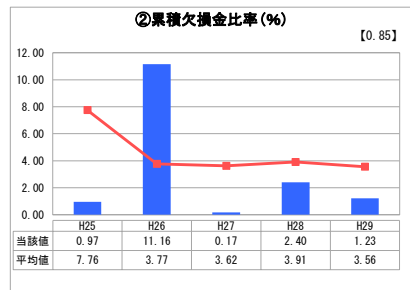
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
34,806	66.46	523.71
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
33,604	47.38	709.24

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成29年度全国平均

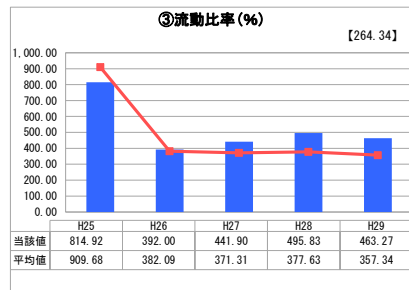
1. 経営の健全性・効率性



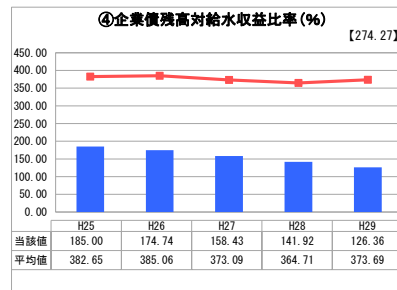
「経常損益」



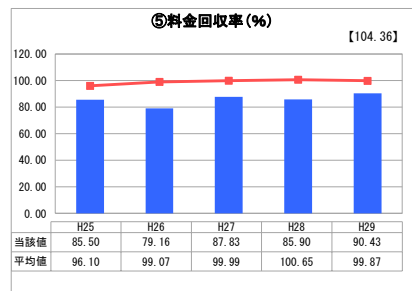
「累積欠損」



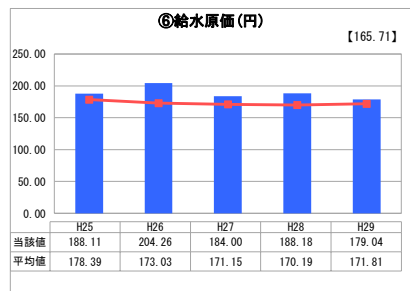
「支払能力」



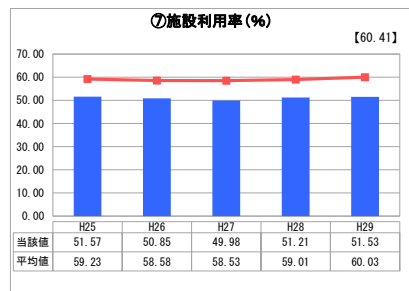
「債務残高」



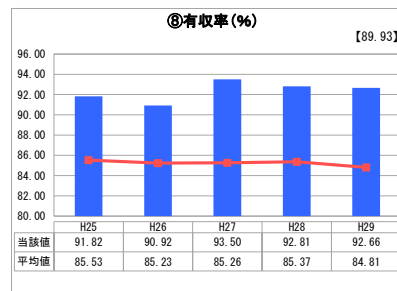
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

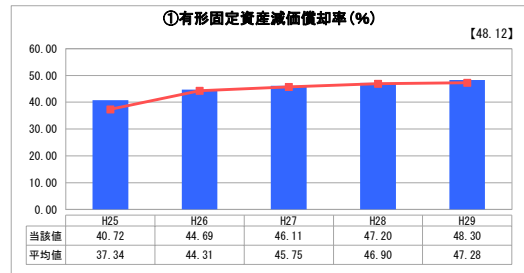


「施設の効率性」

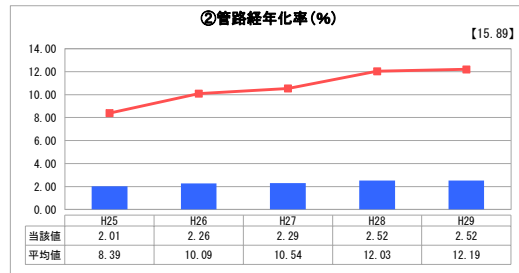


「供給した配水量の効率性」

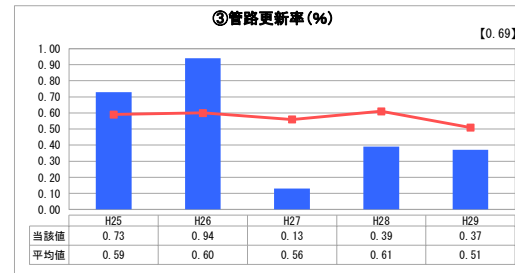
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収入及び支出の単年度収支は赤字が続いており、経常収支比率及び累積欠損比率は基準をクリアしていない。単年度収支を黒字にすることを目標に、更なる費用削減と受託工事に係る補償費・設計監費の確保など、収入増に努めている。

流動比率は基準となる100%を上回っている。現時点では、将来的に、流動資産の減少傾向や流動負債の増加傾向は見込まれない。

企業債残高対給水収益比率は類似団体と比較して低い状況であるが、これは、近年、主に下水道工事等に伴う配水管移設工事を補償費を財源として行っており、合併以後、企業債の起債をしていないことが大きな要因である。

料金回収率は基準の100%を下回っており、類似団体平均値よりも低い状況である。また、給水原価は類似団体平均値を上回っている。

施設利用率は類似団体平均値を下回っており、50%程度となっている。

有収率は類似団体平均値を上回っている。漏水調査の実施や市民の通報により発見した漏水箇所の早期修繕などに取り組んでいる。

2. 老朽化の状況について

管路経年率は類似団体平均値を下回っているが、管路更新率は毎年1%以下である。

平成30年度より、ポンプ場内の機器等の更新を実施、管路更新についても、現在策定を行っている更新計画により順次進めていくよう考えている。

全体総括

安定的な給水を確保し、持続するために、施設の更新に計画的に取り組む必要がある。管路については、今年度策定している管路更新計画により順次進めていくよう考えている。

また、収益的収入及び支出の単年度収支を黒字にすることを目標とし、将来的には、料金についての検討も含め、財政面の見直しも進めていく。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。